地方だより

◎仙台より

今年も東北各地へは他地方からいくつも現地調査団が入りこんできたようである。東北大学の各研究室でもそれぞれに現地研究がとりはこばれているが、なるべく一定のテーマを追求しての継続的な調査研究をおこなおうというのが、近年の傾向といつてよい。いわば「お祭」めいた一回こつきりの現地調査でなく、研究室での完全の共同討議と継続的な現地観察とを積重ね※

※つつ、問題の核心に迫ろうというのである。事務局が移されたのを機会に、各研究室間の話合いの場を作り、それぞれの研究成果の交換や調査方法の検討などをしてみたいと、寄り寄り打合せ中である。何とか仙台支部といつた形で、定例の研究・談話会にまでもつて行きたいと念願している。以下に主な現地調査研究を紹介しておく。

△煙山調査（近世村落共同体の解体、経済学部中村（吉）研究室）。すでに六年にわたる共同研究も、ようやく本年で一応のまとまりがつけられ、近く、その報告書が刊行される。

△共有林野と村落の問題。（経済学部木下研究室）青森、岩手県下の各地の調査。

△町村合併と地域社会の変動について、（文学部社会学研究室）白石市を中心に現地調査。

△三陸沿岸における漁業の発達と村落構造の変動（教育学部教育社会学研究室）牡鹿半島、気仙沼湾、唐桑湾を調査。牡鹿半島の三年間の調査結果は近く本となる。

△奥羽山村の社会変動（同上）、蔵王山麓の調査。

△東北農村の社会慣行（文学部各研究室共同）柏原、会津地方を中心に予備的調査を終了、（才一年度）

△東北民家の調査（農学部生活科学研究室）仙台近郊について。

学会大会の前々日に開催する。

以上の如くであつた。

（中野卓）